

一 般 質 問

Q 小平町における新たなごみ処理手数料の軽減対策は



西 埜 克 明

一、広域で行う生ごみ中間処理施設建設事業については、事業費の経過を見ると当初の基本計画では5億3240万円、その後、計画事業費が二転三転し、先般聞いたところでは7億2000万円強の事業費となっている。当初から比較すると3割強ほど高くなっているが、今後このようなことはないか伺う。

二、平成25年4月から始まるごみの分別は22種類になると聞いているが、町民に対してどのように周知するのか。また、小平町にあつてはごみ袋単価が大幅に跳ね上がることが示されており、このことについて町長はどう考えているか。

A 運営経費の低減による町民への還元も必要

町長 関 次 雄

一、当初の計画とこれほどの差がなぜ生じたのか留萌南部衛生組合へ確認したところ、当初計画から造成工事及び建屋面積の増加が第一の要因であると聞いている。今後は、造成工事で多少増額が予想されること、また、増毛町の最終処分場工事で若干工事費が膨らむことを聞いている。

二、周知については8月に町内会長会議を開催し、その後各町内会単位での説明も必要と考えている。また、ごみ処理手数料においては、ごみ処理の広域化に伴い、およそ200万円ほどの経費の節減が見込まれることから、町民への還元も必要と考えており、どのような支援が可能であるか、議員の皆さんとも協議・検討したい。

Q 避難路の設置状況は



山 内 裕

一、町内各戸へ防災マップを配布した後の住民の反響と自主防災組織の現状及び避難路の設置状況について伺いたい。

二、ウニ種苗生産施設は指導管理者が退職し、本年6月以降の運営が難しいと聞いているが、現状と今後の運営について伺う。

A 6町内会から設置要望があり、

さらに要望があれば速やかに対応したい

町長 関 次 雄

一、防災マップは4月に全戸配布を行い、2町内会から説明会の要請を受け開催したところである。自主防災組織は鬼鹿地区8町内会が組織されているが、例年積極的に避難訓練を実施し、避難路設置も行った白谷3区町内会にも自主防災組織の構築を期待したい。避難路設置状況は、現在4町内会が設置を終え、2町内会から要望を受けている。さらに他の町内会から設置要望があった際は、速やかに対応したい。

二、施設の運営委員会において検討し、漁家の意見集約を実施したところ、継続を希望する鬼鹿地区を除き、白谷地区・留萌3地区・増毛6地区から種苗生産は中止するという意見が寄せられた。これを受け、継続希望が少ない現状と今後新たな技術者の養成や確保には時間が必要なことから、6月生産の採苗放流をもって中止する方針となった。今後においては新たな魚種、種苗での有効利用も検討しているが、運営委員会としては10月末までに結論を出したいと聞いている。